

平成 24 年度 府中市立あさひ苑 事業報告

I 概要

1) 利用者動向

特養稼働 95.4%。短期入所稼働 96.6%は、7月に発生した疥癬による一時閉鎖の影響が大きい。通所介護稼働 78.8%。8月から提供時間を7時間-9時間とした。居宅は、自主点検による体制確立のため件数は減少したが12月には再度、特定事業所加算を算定できるところまで来た。包括は、若松町(2~5丁目)を緑苑に移行し結果相談件数とその分減少した。ヘルパーは居宅の自主点検もあり利用者減があった。

2) 職員・育成

新人8名(新卒2名、契約有期雇用からの移行5名、他1名)を迎え、介護員・調理員・介護支援専門員として各現場できめ細い育成を行った。非常勤職員にはワークプランを配布した。正職員の退職年間4名。

3) 平成24年度事業計画についての報告

地域包括支援センターが中心となり、介護サービス・福祉サービスを最大限に生かすべく施設内の会議での情報共有を引続き行った。認知症対応の専門性を高めるため通所担当を中心に研修を行い理解を深めた。事業監査を受け、事業計画の達成度を年度の中で繰返し点検する必要性を確認した。

4) 平成24年度重点の動き

あさひ苑開設20周年を前に原点に立ち返り、地域・利用者から信頼される施設を目指し、施設内の自主点検を行った。業務管理に関する研修を法人・施設内で行った。

II 事業別動向

区分	成 果	課 題
特養	東京都実地検査での指摘を受け、ケアプラン・個別記録の重要性を改めて認識し、取り組んだ。	ケア内容・業務の根拠の理解が不十分
短期入所	年度途中で担当変更があり、体制が一部変更となったが、ホームとの連携を強化し、業務を滞りなく実践した。	定期利用者減少・感染症による実績低下
デイサービス	制度改定に伴い、サービス提供時間帯を利用者の希望する時間帯で調整した。	情報の共有・連携を強化していく
ホームヘルプサービス	施設入所・永眠等で利用者が減少したが、他事業所との関わりを深めたことで利用者が増加した。	人材育成及び高齢者支援ヘルパー事業の取組
地域包括支援センター	委託事業をチームで連携し取り組んだ。認知症サポーター養成講座を第2中学校5クラスで行い次年度に繋ぐ。	予防事業をサービスセンターと連携し取組む
居宅介護支援センター	特定事業所加算の再取得をめざし、制度の理解を深めながら実践に向けての取り組みができた。	居宅会議(レベルアップ、情報共有等)の充実
事務	新会計基準への理解に努め、移行への対応ができた。安定した請求業務	収入ベースの予算執行管理資料作りが不十分
管理	業務管理について原則の確認・点検を行い、考え方の周知を図った。	修繕等建物管理についての理解

III リスクマネジメント

1) 苦情・第三者評価

苦情17件サービス向上会議にて審議。今年度も“にほんの福祉ネット”で第三者評価を受審。

2) 感染症等予防・蔓延防止の取組

疥癬対応：入所時の皮膚観察の重要性の再認識。素早い対応で確定診断を受け施設一丸で対応した。

3) 緊急対応

特養8件(要介護5/2件、要介護4/4件、要介護3/2件)、短期入所4件(要介護5/3件、要介護2/1件)緊急対応をした。

4) 防災

自衛消防審査会参加(6月)。地震時の事業継続訓練に重点を置き実施した。

5) 勤務管理

勤務表作成基本ルールの確認を行い、適正な職員配置になるように整理した。